

南アフリカ 生食用ブドウ輸出が23%増加

[FreshPlaza 2024年12月20日](#)

南アフリカ産生食用ブドウの輸出検査数量は12.6%減少したものの輸出量は23%増加

南アフリカの生食用ブドウ業界は、2024/25年度シーズンについて、2024年第50週(12月の第2週)までの輸出検査数量と実際の輸出量の傾向が一致していないと報告している。輸出のために検査された箱数は合計1,099万箱で、昨年と比較して12.6%少なく、これは北部諸州とオレンジ川流域での早生品種の収量が減少したためであった。しかし、輸出量は前シーズンに比べて23%多い751万箱に達し、これは物流の改善と在庫量の減少によるものとされている。

5つの主要産地のうち3つ(北部諸州、オレンジ川流域、オリファンツ川流域)は積極的に梱包を行っており、一方ベルク川流域とヘックス川流域は出荷開始の準備段階にある。検査数量では、プライム(127万箱)、アーリースイート(34万9,685箱)、ミッドナイトビューティー(25万4,317箱)等が特に注目される。輸出量も同様の傾向で、これと同じ3品種が多い。ヘックス川流域では第51週に梱包を開始する予定であり、ベルク川流域の生産者の大部分は第52週に開始すると見られる。すべての地域で好天に恵まれたことは、中生品種の収穫に関して良い兆候であり、生産者は品質の高い作物を期待している。

輸出先は引き続きEUと英国が主体で、出荷量の87%を受け取り、7%が北米に送られる。ケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)の改善により効率が上がり、1時間当たりのクレーンの総稼働回数は前年の11回から18回に増加した。CTCTは、生産性の向上と関係機関間のコミュニケーションの強化のために、強風時の対応の改善やリーファーコンテナの管理の改善など、いくつかの対策を講じた。

地域別に見ると、北部諸州では早生品種の収穫が遅れたため11%減の292万箱が梱包された。オレンジ川流域では昨年より12%少ない803万箱が梱包されたが、中生品種は好調である。オリファンツ川流域では、収穫の遅れによる71%の減収を反映して、梱包箱数はわずかに4万4,099箱と大幅に減少した。ナミビアは、シーズン序盤の業績が好調で、前年比10%増の758万箱が検査を受けたと報告している。

世界的には、ペルーとチリによる輸出市場の拡大が続いている。チリは、北米市場及び中南米市場の成長に牽引されており、輸出量は2%増の1億2千万箱と予想される。ペルーは当初、25%増の1億4,200万箱と予測されていたが、主要産地での水不足により予測を修正した。両国は、変化する市場の需要に対応するため、オータムクリスプ、ティンプソン等の新しいブドウ品種に投資している。

南アフリカのブドウ産業は、好天と物流の改善により、早生品種の収量の低さや世界市場で見られる水の制約という課題にもかかわらず、今シーズンを成功に導くための好位置につけている。品質を維持し、国際的な需要に効率的に対応することが、引き続き取り組みの中心となる。

南アフリカ生食用ブドウ協会のレポート全文は [こちら](#)